

なかじま



Doctor's Pick up

- もの忘れ外来のススメ -



Nakajima Zoom up

- 栄養サポートチーム -



「食事」は入院中の楽しみでもあるべきと考え、この4月より行事食、選択メニューなどを広く患者様に知って頂く活動を計画しました。病棟のデイルームだけではなく配膳車にお知らせポスターを貼り、患者様、病棟スタッフのコミュニケーションに活用してもらおうと考えています。毎月必ず行っている行事食も呼び名を一新し、新しいチャレンジに向かって努力していきます。

TAKE FREE
2018年
03月発行 vol. 14

ご自由にお持ちください
[中嶋病院 地域医療連携室 広報誌]

中嶋病院の食事大公開！

KOUYOUKAI GROUP INFO

- 康陽会グループ インフォメーション -

当院の厨房は2016年7月より直営化しました。食事を作っている従業員は全員中嶋病院の職員です。現在厨房に所属するスタッフは、栄養士4名、調理師8名、調理補助15名、1日2交替で朝4:30~作業をしています。委託業者にたよらない食事提供の可能性を広げるべく「給食」から「食事」へのイメージ脱却を目指して日々の業務を行っています。



行事食・イベントメニュー



松花堂中嶋Bento(弁当)
松花堂弁当でお食事を提供します。



カフェランチ
ちょっとよそ行きのランチ。



ランチdeコラボ
障害者支援施設ステージバスさんとの連携ランチ。
障害のある方が作った野菜で料理を作ります。



スペシャルランチ
郷土の名物料理を紹介します。



セレクトランチ
調理師が腕を競いどちらかを選んでいただける企画盛りだくさんのメニューをお届けします。



なかじまkitchen
eiyo-nakajima.seesaa.net

院内で提供したイベント食はホームページで紹介しています。
ブログへのコメントも、どしどしあ待ちしていますので、皆様のご意見よろしくお願いします。
患者様の「美味しかった」の一言が栄養科スタッフの頑張りへと繋がっています。

イベントメニューを
公開中!!

ご意見・ご要望・お問合せはコチラまで

中嶋病院 [地域医療連携室] renkei@nakajima-hs.or.jp

TEL 022-292-0820 FAX 022-292-0508

〒983-0835 宮城県仙台市宮城野区大槻15-27



中嶋病院 [法人管理室]
TEL 022-292-3277

広報誌について
お問い合わせ

○ 社会医療法人 康陽会
中嶋病院 ☎ 022-291-5191
介護老人保健施設やき ☎ 022-257-2020
介護老人保健施設コジーケア・ホーム ☎ 022-255-2525
介護老人保健施設メープル小田原 ☎ 022-267-5121
仙台東部訪問看護ステーション ☎ 022-296-2055
中嶋ケアプランセンター ☎ 022-292-0507
コジーケアプランセンター ☎ 022-396-0965
ケアプランセンターメープル小田原 ☎ 022-267-5124
岩切地域包括支援センター ☎ 022-255-2524

○ 社会福祉法人 康陽会
特別養護老人ホーム J&B ☎ 022-291-2216
介護付有料老人ホーム J&B ☎ 022-291-2217
清水沼デイサービスセンター ☎ 022-291-2218
グループホームやわらぎ ☎ 022-292-2531
グループホームJ&B小田原 ☎ 022-714-5088

もの忘れ外来のススメ

| 戸嶋 政秀 |

医療の進歩やその周辺環境の整備に伴い、今や日本人の平均寿命は

香港に次いで世界2位となりました。皆様ご存知かと思われますが、男性で80・98歳、女性で8・14歳と発表されておりました(いずれも2016年、厚生労働省調査)。これは大変喜ばしいことであり、誰もが安心して暮らすことのできる日本の生活環境はとても素晴らしいものです。

しかし一方で、高齢化社会の形成に伴い今までになかった様々な問題が出てきているのも、現実と言わざるを得ません。



かつては「ボケ」と呼ばれていた「認知症」もそついた問題の一つに挙げられます。今や高齢者の約4人に1人が認知症、またはその予備軍と捉えられています。統計学的には約5人に1人である約700万人が認知症になると予測されていますが、これは大変な数字です。そのため、現在厚生労働省を始めとする様々な関連省庁がこの問題にあたっています。

ところで、「認知症」とはどういった疾患でしょうか。人は誰しも、加齢とともに記憶力は衰えていきます。「若い頃はこんなことなかったのに…」とみなさん感じることがあるでしょう。しかし、これはいわゆる「認知症」とは全く異なります。「認知症」の方は、忘れたこと自体に気がつかず周囲とトラブルを生じてしまうことがあります。周辺症状として「徘徊

徊」や「怒りっぽい」「介護拒否」などをなされることもあり、また残念ながら徐々に進行していきます。末期には他人や家族とのコミュニケーションも困難になってしまいます。

治療に関しましても現在、「認知症」には特效薬がありません。あくまでも進行を遅らせる効果のある投薬しかできず、進行を止め、記憶力を戻す治療はできません。そのため認知症の治療は、他の、例えばがんや肺炎、心不全といった疾患とはやや性質が異なります。

進行性であることから、まずは早期発見が重要です。先に挙げた加齢に伴うただのもの忘れなのか、それとも認知症の発症なのかは、病院での各種検査が有用です。中には脳血管障害に伴う認知症など治療可能なこともありますし、早期発見することで本人や周囲の方の安心にもつながります。しかし残念ながら程

度進行してしまった場合、ご本人には病院だけではなく、家庭環境の整備や介護サービスの利用なども重要なことがあります。厚生労働省の認知症施策方針は、「認知症の方が認知症とともに住み馴れた地域でより自分らしく暮らし続ける」ことを目標の第一に掲げています。

当院では、「もの忘れ外来」で私を含めた「認知症サポート医」が診療にあたっています。「認知症サポート医」とは厚生労働省の特別な研修を経て得られる資格ですが、認知症の診断や治療のみならず、ご家族や地域の支援推進員、またより高次の専門医療機関やその他認知症の連携を行っていきます。認知症の方の「縁の下」を担うものです。認知症の方の地域のかかりつけ医としての役割もあります。認知症の方一人一人がより自分らしく暮らしていくよう、日々考えながら介護施設などの連携を行っていきます。

「もの忘れ」でお悩みの方がいらっしゃいましたら、是非お気軽に受診してください。

TOPIC
2
Nakajima
Zoom up

栄養管理の全面サポート部隊

当院では、患者さんの栄養面をサポートする「栄養サポートチーム」があります。今回は、栄養サポートチーム・NST委員会事務局の吉野さんに、お話を伺いました。

【Q】NSTとはどういう活動ですか?

【A】栄養不良による病気回復の遅れや感染症リスクの増大、寝たきり等を防止する為、患者様の栄養状態をサポートする院内活動です。

入院患者様の栄養評価を行い、栄養管理が必要と考えられる患者様に対して、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・管理栄養士等によつて構成されるメンバーで週1回の回診を行っています。回診以外でも、勉強会企画、広報・病院食改善等のチームに編成し、栄養に関する様々な活動を行っています。

【Q】栄養状態の改善は何故必要なのでしょうか?

【A】栄養状態が悪化すると、全身の筋力が低下して寝たきりになつたり、創傷治癒の遅延、免疫機能の低下等のリスクを伴い入院期間の延長を招きます。栄養管理は医療の基本です。

NST活動を行うことで管理栄養士が病棟業務を行う時間が多くなり、患者様にもっと喜んで食べて

もらいたい、美味しいと言つてもらいたいという気持ちが大きくなりました。その気持ちが現在の中嶋病院の食事に繋がっています。給食というイメージではなく、食事と思える内容になればと考えています。エネルギーや塩分が限られている中で美味しく食べて貢うための工夫を調理師と話し合いながら毎日の食事に繋げています。



医療連携施設のご紹介

特別養護老人ホーム オー・ド・エクラ

ユニット型施設サービス(120床)
ユニット型短期入所生活介護(20床)

湖山医療福祉グループの理念である「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」の元、地域の皆様と共に歩み、これまでにないユニークな施設を目指し、地域に欠かせない存在となることを目指します。

■住所／仙台市太白区山田北前町8番1号
■TEL／022-724-7506 ■FAX／022-724-7507